

イデックスオイルレポート ~For a week~

（※新出光）

【概況】

●7日、報道によると、ロシアのノバク副首相は7日、石油輸出国機構加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が決定した4月から自主減産縮小を始める方針について、撤回する可能性があるとの発言。その上で、同国の2月の産油量は割当枠を下回ったとの見方を明らかにした。一方、過剰生産を続けていたカザフスタンの政府筋は3～5月の生産量削減を約束したと伝わり、相場は朝方にかけて堅調に推移した。しかし、その後は値動きが荒くなり、上げ幅を削る展開。トランプ米大統領はこの日、イランに核問題などを巡る交渉を迫ったほか、ロシアに対してはウクライナへの攻撃を止めるよう要求。応じなければ軍事的な圧力や金融制裁を検討するとし、供給混乱への警戒感が広がり相場は67.04ドルへ続伸した。

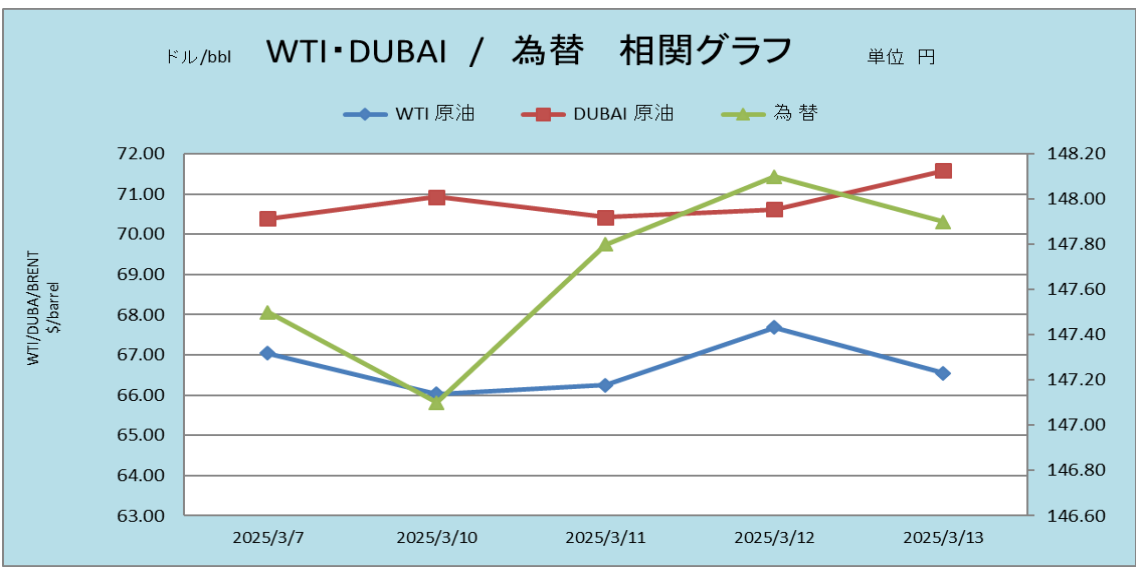
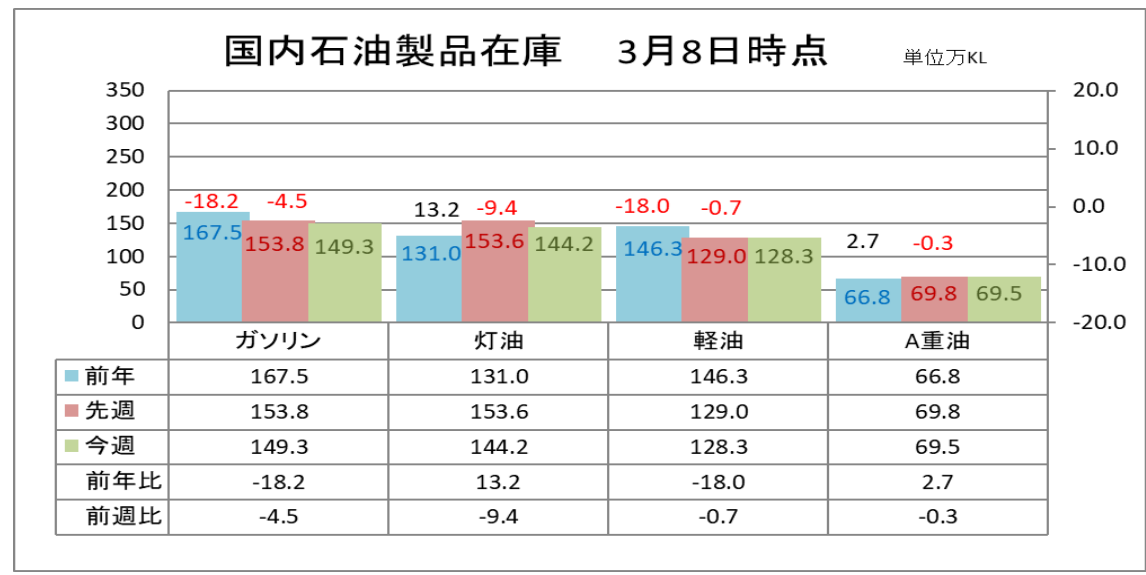
●10日、中国政府は10日、トランプ米政権による4日の対中追加関税への報復措置として、米国産の農産物などを対象とした関税を発動した。米国と中国などとの貿易摩擦が激化すれば米国内外の景気減速を招き、エネルギー需要見通しにも悪影響を与えるとの見方が拡大。トランプ米大統領が9日、米国が今年リセッション（景気後退）に陥る可能性を否定しなかったことも、景気不安に拍車を掛けた。中国国家统计局が9日に発表した2月消費者物価指数（CPI）が前年同月比0.7%低下と1年1カ月ぶりにマイナスとなったことも、同国のデフレ懸念をあおり相場は66.03ドルへ反落した。

●11日、米景気の先行き不安を背景に、この日は外国為替市場で一段とドル安が進行。これを眺め、割安感の生じたドル建て商品が物色され、朝方にかけては堅調に推移した。前日に約半年ぶりの安値を付けた反動で買い戻しも入り相場は66.25ドルへ小反発した。

●12日、米エネルギー情報局（EIA）がこの日午前発表した7日までの1週間の石油在庫統計によると、原油在庫は前週比140万バレル増となり、増加幅は市場予想（200万バレル増＝ロイター通信調べ）を下回った。ガソリン在庫は570万バレル減、ディスティレート（留出油）は160万バレル減と、いずれも予想の190万バレル減、80万バレル減を上回る取り崩しとなった。これを受け、需給が引き締まるとの見方が台頭し相場は67.68ドルへ続伸した。

●13日、欧州連合（EU）は12日、米政権が同日発動した鉄鋼、アルミニウムへの25%の追加関税への対抗策として、4月1日からウイスキーなどの米国産品に追加関税を課すと表明。これに対しトランプ米大統領は13日に米国産ウイスキーの追加関税の方針を撤回しなければ「EUからのワイン、シャンパンなどの酒類に近く200%の関税を課すだろう」とSNSに投稿した。貿易摩擦の激化が世界的な景気減速につながり、エネルギー需要も低迷するとの観測から原油が売られ相場は66.55ドルへ反落した。

3月14日 16:00現在 WTI原油 67.06ドル 為替 1ドル 149.35円



	次回元売変動予測	
	3/20日～	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.5～+1.0
灯油	➡	+0.5～+1.0
軽油	➡	+0.5～+1.0
A重油	➡	+0.5～+1.0
LSA	➡	+0.5～+1.0

※原油コスト「-0.5円～±0.0円」
※激変緩和補助金「-1.5円」前週比+1.0円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-5.0円」、補助金は、「-2.5円・0%」、都合「+1.9円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの10日時点の小売価格平均は184.1円となっている。

《3月20日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-0.5円～±0円」、激変緩和補助金は「-1.5円・0%」の見込みで、都合「+0.5円～+1.0円」の改定予測となっている。

【次世代エネルギー】 < 大阪・関西万博で国内初となる合成燃料を使用したシャトルバス >

西日本ジェイアールバスとENEOS、日野自動車は、大阪・関西万博開催期間中に国内初となる合成燃料を使用した万博シャトルバスを運行することを発表した。運行ルートは大阪駅～大阪・関西万博会場で、1日10便運行する。期間は4月13日～10月13日。

水素と二酸化炭素から一貫製造した合成燃料を使用したバス。原料に再生可能エネルギー由来の水素と二酸化炭素を使用しているため、原料製造から製品利用までの製品ライフサイクル全体の二酸化炭素排出量を抑えられるという。

ENEOSは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構「グリーンイノベーション基金」の支援を受け、2024年9月に同社の中央技術研究所内に完成した実証プラントで製造した合成燃料を万博シャトルバスに提供する。

西日本JRバスは、大阪駅（うめきたグリーンプレイスバス駐車場）～大阪・関西万博会場直通的シャトルバスの運行を行ない、日野自動車が万博シャトルバス運行に向けて合成燃料と車両やエンジンの適合性を確認し、運行をサポートする。